様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月 ２８ 日現在

機関番号：３２６４３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2019
課題番号：１７Ｋ０４４５６

研究課題名（和文）妊娠出産経験の語りの分析による女性セラピストのライフサイクルにおける成長過程解明

研究課題名（英文）The process of therapist's self-reflection on changes in relational attitude with clients through pregnancy and childbirth

研究代表者
笠井　さつき（KASAI, SATSUKI）

帝京大学・心理臨床センター・准教授

研究者番号：７０２９７１６７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,500,000円

研究成果の概要（和文）：出産前後の女性心理援助職を対象に、「妊娠出産子育てという体験の中で、女性心理援助職がセラピストとしての自分を見つめ直していくプロセス」について半構造化面接を行い、修正版グラウンデッド・セオリーにより分析した。その結果から、セラピストが妊娠により不十分さに直面し、休むことへの自責の念を整理し乗り越えようとする中で、親であることの体験活用や、クライエントとの関係性の変化を経験し、受容感を持つに至ることが示唆された。そのような動きは子育ての現実によりもたらされ、セラピストであることの主体性につながり、セラピストとしての不十分さを受け入れるというプロセスが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
最終年度のセラピストの主体性に着目した再分析により、復職後の女性セラピストの【ゆれうごく主体性の調律】により推進された【自らの変化の感知】が臨床場面の中で認識され、「自負感から下りる」、「他者の主体性への感度の高まり」という＜他者への構えの変化＞や＜親としての視点を生かす＞という臨床の中で親の視点を直接活用する概念、目標を追うことや先取りせずに，クライエントに必要な時間をかけることを重視した＜時間感覚の変化＞も生じていたことを報告した。

研究成果の概要（英文）：I conducted qualitative interviews with eight female therapists who were expecting and new mothers. The interview included their psychological experiences of the pre-pregnancy period and changes in relational attitude and recognition of their clients. The recorded data were transcribed and analyzed based on the Modified Grounded Theory Approach. Fifteen concepts and 5 categories were generated. The results indicated that therapists encountered their imperfection through pregnancy, and experienced guilty feeling about the absence from the clients. Through the effort to overcome those feelings, they acquired the self-competence of using their motherhood and experienced the changes in the relational attitude with the clients, which brought to the sense of self-acceptance. These dynamic changes were based on the real experience of child rearing, which led to the sense of subjectivity, and finally the acceptance of the incompleteness as a therapist.

研究分野：臨床心理学

キーワード：女性セラピスト　妊娠出産　質的研究

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

笠井さつき（2002）．女性セラピストの妊娠が心理療法に及ぼす影響－３事例の報告を中心として－．心理臨床学研究，**20**，476-487．

笠井さつき（2009）．受け入れがたい現実としての治療者の妊娠－空想の対象から現実の対象へ－．精神分析研究，**53**，22-31．

２．研究の目的

本研究では，セラピストの妊娠出産に対するクライエントの反応の背景にあるセラピスト側の変化を直接の研究対象とする。具体的には，セラピスト側の変化のプロセスについて，出産前後（妊娠中～出産後，復職後）のインタビューから質的分析を行う。なお，本研究の大きな特徴は，女性心理援助職の妊娠出産子育ての中での変化を捉えるために，妊娠中と出産後にわたり継続的に面接を行ったところにある。

研究テーマは，「妊娠出産子育てという経験の中で，女性心理援助職が変化を経験していくプロセス」，分析テーマは，「妊娠出産子育てという体験の中で，女性心理援助職がセラピストとしての自分を見つめ直していくプロセス」，分析焦点者は，「自らの妊娠出産前後に担当ケースに対して継続面接を行っている心理援助職の女性」とした。

本研究により，妊娠出産子育て中の女性心理援助職がセラピストとしての変化を理解し受け入れることで，クライエントとの関係に役立つ知見を得ることができるものと考えられる。

３．研究の方法

調査協力者は，妊娠中の女性心理援助職（臨床心理士，精神保健福祉士，精神科医）8 名であり，それぞれ妊娠中から出産後復職後の期間にかけて，出産後は状況に応じて頻度が異なったが，1 回から 10 回，事前の質問紙で調査協力者の臨床経験や妊娠出産の状況などを尋ねた上で，妊娠前後のクライエントとの関係の変化や母親となった体験，復職前後の臨床に対する気持ちなどについて，1 回について 30 分から 1 時間，のべ 41 件の半構造化面接を行った。

面接は調査協力者の了承を得て録音したものを逐語に起こし，M-GTA（木下，2017）を用いて以下のように分析を行った。手続きに従い，逐語記録の中から分析テーマと分析焦点者に照らして関係すると考えられる個所を抜き出し，それを具体例（ヴァリエーション）とした。ワークシートを作成し，最初のヴァリエーションにもっとも当てはまると考えられる定義を作成し，定義を表す概念を作成した。作成した定義に当てはまるヴァリエーションを逐語記録の中からさらに探すという作業を繰り返し，同様の手順で分析テーマと参照しつつ，他の定義も作成し，順次概念を作成した。この段階で，熟練者のスーパーヴィジョンを受けながら作業を進めた。理論的飽和と判断された段階で，２概念間検討を行い，複数の概念の関係からカテゴリーを生成した。カテゴリー相互の関係を文章化したストーリーラインと，結果図を作成した。最終的に，15 の概念との５カテゴリーが生成された。

４．研究成果

2018 年度と 2019 年度に「女性セラピストが自らの妊娠出産を通して心理臨床と向き合うプロセス－女性心理援助職のインタビュー分析－」として学会報告を行い、女性セラピストの出産前後（妊娠中～出産後、復職後）という時期に継続してインタビューの修正版グラウンデッド・セオリー（木下，2017）による質的分析から、セラピストの変化をクライエントとの関係を通して明らかにすることを目指した。2018 年度の中間報告として 20 件の分析結果を経て、2019 年度には計 39 件のインタビューの分析結果を報告した。

最終年度においてはこの 2019 年度の分析で得られたストーリーラインの内、【Th であること

の主体性】という後半部分のカテゴリーに着目し、分析焦点者を「心理支援職への復職に関する自己決定をした出産後の女性セラピスト」、分析テーマは「妊娠出産子育ての中で心理支援職としての復職に関する意思決定を女性セラピストが行うプロセス」として、新たに2件のインタビューを加えて再分析を行った。前回の報告において M-GTA の方法論上の問題点として指摘されたことを受け、変化が終了したと見られる出産復職後の語りを分析の対象とした。調査協力者は、最終的には妊娠出産子育て中の女性心理援助職（臨床心理士、精神保健福祉士、精神科医）9名とした。最終的なストーリーラインとして、復職後の女性セラピストの【ゆれうごく主体性の調律】により推進された【自らの変化の感知】が臨床場面の中で認識され、「自負感から下りる」、「他者の主体性への感度の高まり」という＜他者への構えの変化＞や＜親としての視点を生かす＞という臨床の中で親の視点を直接活用する概念、目標を追うことや先取りせずに，クライエントに必要な時間をかけることを重視した＜時間感覚の変化＞も生じていた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 笠井さつき
２．発表標題 女性セラピストが自らの妊娠出産を通して心理臨床と向き合うプロセス－女性心理援助職のインタビュー分析－.
３．学会等名 日本心理臨床学会第37回大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 笠井さつき
２．発表標題 女性セラピストが自らの妊娠出産を通して心理臨床と向き合うプロセス－女性心理援助職のインタビュー分析－第2報.
３．学会等名 日本心理臨床学会第38回大会
４．発表年 2019年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
連携研究者	實吉　綾子 (SANEYOSHI AYAKO) (90459389)	帝京大学・文学部心理学科・准教授 (32643)	